

アフリカの経済成長と食品農業分野における変化
(GFVC推進官民協議会)

アフリカでの ハラルビジネスの可能性

開催日時 2023年3月20日

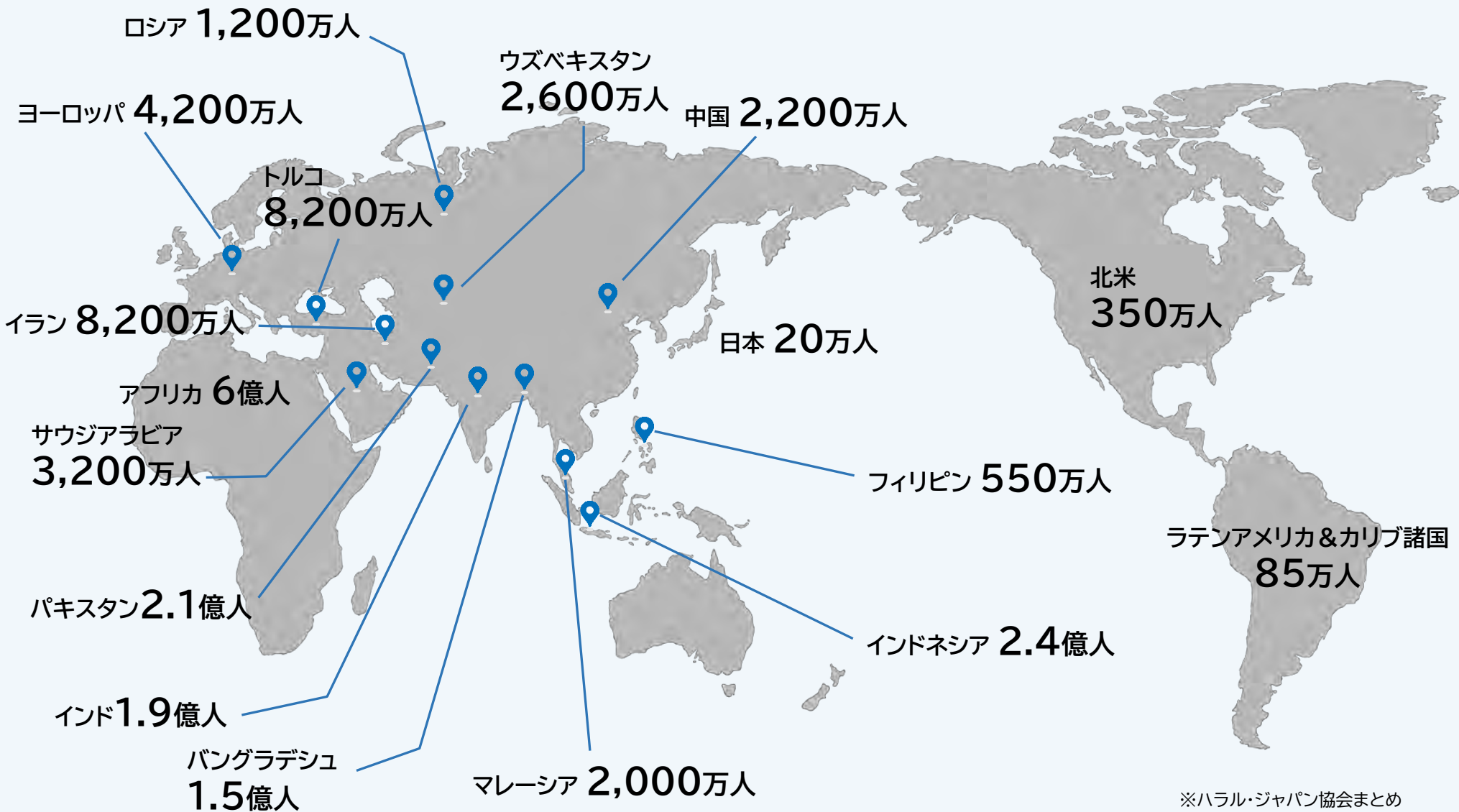
一般社団法人ハラル・ジャパン協会

代表理事 ハラルビジネスプロデューサー 佐久間朋宏



19.5億人 77億人 世界人口 $\frac{1}{4}$ の将来性あるマーケット

【世界のイスラム教徒の人口】



※ハラル・ジャパン協会まとめ

ハラルとは

ハラル(HALAL)とは、イスラムの教え(シャリーア法とイスラム原理)で許された、「健全な商品や活動」の全般を意味します。

(発音の問題ですが、「ハラル」は「ハラール」とも言われます。)

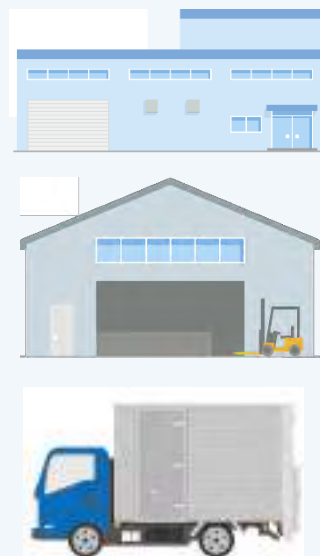
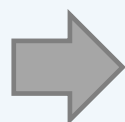


ハラルの反対は「ハラム」あるいは「ノン・ハラル」と呼ばれ、これらはイスラム教徒にとっては有害な物、中毒性のある物を意味しています。従ってイスラム教徒は、ハラル品であると正式に認められるもの以外の食べ物、飲み物などは避ける必要があります。

ハラルとは、こうした安全な生活を示すためのガイドラインであり、イスラム教徒にとってはなくてはならない規準なのです。

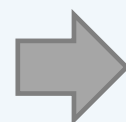
なぜ農林水産品にもハラル認証が必要なのか？

ハラル



加工・輸送・調理

ハラル認証が
要求される場合がある

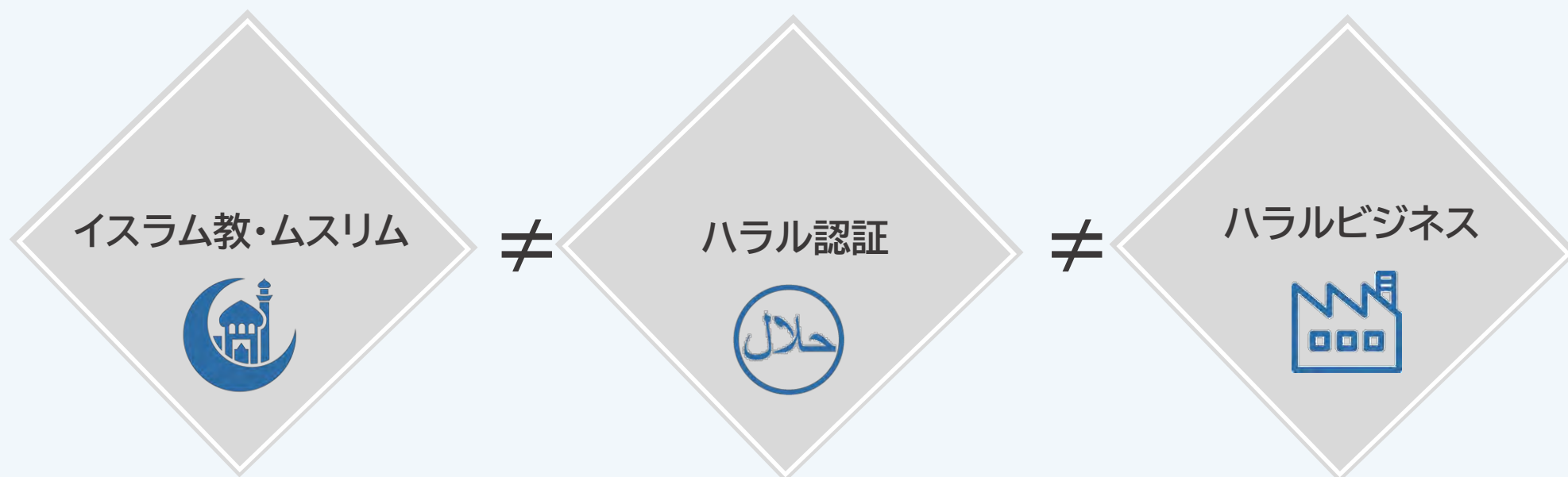


ハラル??



ハラル認証は万能ではありません。

基本を学び、正しく活用することが大切になります。



世界のハラル認証マーク 世界中で300以上の認証団体がある

世界中で300以上の認証団体がある



第三者機関(専門家)によるハラル性の保証

食材をはじめ、日常生活には、多くの原材料が使われており、一般的にはハラールかハラームかの見分けがつかない。そこで、宗教と食品衛生の専門家(ハラール認証機関)がハラールかどうかを判断し、保証するのが「ハラール認証」という制度である。ハラール認証された商品には、ハラール認証マークが付けられ、ムスリムの判断の目安になっている。なお、ハラール認証された商品でもマークが付いていない場合もある。



① 原材料がハラールか

原料がハラールか



② 工場(製造ライン)がハラールか

保管や製造の上でコンタミネーション(交差汚染)が起きないか



③ 管理体制(組織・文書)

ハラルの生産環境が継続し、体制、書類管理は適切か



④ 従業員教育

従業員の理解は十分か(ムスリムの雇用または従業員の教育)

これらを宗教と食品衛生の2つの観点からの監査を実施

認証は複数の時代へ

日本のメーカーにもISO、HACCP + α でハラル認証等が必要な時代が
到来しつつあります。



アフリカは人口増から来る食料難を日本が救う！？

アフリカは人口が多く、今後も増え続け20億人が暮らすと言われている。
食料難時代に日本食をどのように届けるか？がポイントである。
イスラム教徒は北・中部に多く、今回のエジプト、ナイジェリア、モロッコ
などはイスラム教徒が多い国である。

モノだけなら中国・韓国等入り込み、日本製品の正規流通には時間がかかる。
農林水産品の技術移転にチャンスがないか？工場野菜、陸上養殖などの活用も
活路がある。貧困からの脱却と、仕事を与える事である。



1 ハラルは意識するが東南アジア方式のハラル認証主義ではなく 成分ハラルで商談を！（※肉類を除く）

アフリカにはイスラム教徒が約6億人いると言われているが、貧困＝生きるのが最優先。ハラル認証主義ではなく、むしろ安全・安心であれば、成分ハラル(ヴィーガン含む)の対応で十分対応できる。
完成品は日本から遠い分高額となるため売れない。現地製造が現実的。



中東のスーパーマーケットの食品売り場
東南アジア以西はハラル認証マークは必須ではない

ハラル認証制度の歴史

1960年頃にマレーシアで始まる。

イスラム教が国教であるマレーシアは、多民族・多宗教の上、経済発展により輸入品や加工品が増え、成分からは何が安全であるのか判断できなくなったことから国がチェックをし、ムスリムが安心して食品を購入できる制度を作りました。

マレーシアの認証は国が運営しており、

略称**JAKIM**(ジャキム:マレーシア連邦政府総理府イスラーム開発庁)と呼ばれています。現在マレーシアはハラールの工業団地(ハラールパーク)を建設し、外国の企業を積極的に誘致しています。

インドネシアは1970年代にハラール認証制度をスタートさせました。

2019年10月にハラール製品保証法が施行。2024年までは猶予期間ですが、それ以降は食品を始めとして化粧品、医薬品の分野まで段階的に対応が必要となります。

新制度移行に伴い、ハラール認証の認証書発行権限は、これまでハラール認証機関であった宗教学者組織のLPPOM-MUI(インドネシア・ウラマー評議会)から、新設政府機関の**BPJPH**(ハラール製品保証実施機関)へと移管され、BPJPH が認定したハラール検査機関が商品の検査および監査業務を行うこととなりました。

特に東南アジア(マレーシア、シンガポール、インドネシア)で積極的に用いられていますが、フィリピン、インド、バングラデシュなどの近隣のイスラム諸国にもハラール認証制度が広がりつつあります。

■ ハラル認証には世界統一基準がない

世界には300以上のハラル認証機関があると言われていますが、世界的な統一基準は定められていないため、それぞれの認証機関によって判断や指導内容が異なる場合があります。例えば、ハラル認証制度の特徴のひとつは、認証に際して、原材料だけではなく製造環境にも対応が求められることですが、工場全体を対象として判断する認証機関もあれば、実質的にコンタミネーション(交差汚染)がなければ、同じ工場内でハラルでない商品を製造していても、製造ラインごとに判断し、認証機関によってチェックされた製造ラインに対しては認証を出す認証機関もあります。CODEXはCAC/GL 24-1997はハラルに関するガイドラインを定めているものの、実用的な基準とはなっていません。

■ 食肉以外のハラル認証が不要な国もある

例えば、中東諸国は、輸入する段階で群(ロット、輸入単位)としてハラルか否かの判断(書類審査、現物検査)を行うことが原則なので、国内市場にあるものは、特定売場を除き全てハラルということになり、ハラルマークや成分表示の確認は必要とされません。

イスラム教徒の「ハラル認証」に対する考え方

- ・ハラル認証はイスラム教徒(ムスリム)にとって安全・安心のマーク。
- ・ハラル認証がないと食べない訳ではなく輸出できない訳でもない。

※肉のみが特別なので注意が必要。





発信は中東GCCまたはEUから行う

アフリカはアジアではない。日本から遠いため、発信の拠点が必要である。
やはりUAEドバイあたりがいいと考える。

エジプトカイロの高級日本食レストラン、寿司屋のオーナー(バイヤー)は
ドバイに買い出しや空輸を頼むことがあり、また他の食品流通を考えると
欧州商社の商流に入り込むことがポイントである。

ドバイの日本食材、テーブルウェアの専門店



エジプトのお菓子売り場





3 エジプトは米を食べる、コメの付加価値マーケティングの徹底

食糧輸出国でもあるエジプトを例にすると、関税も高く自国の保護を行っている。日本食品で輸出できているものに「付加価値」をつける。

サバが輸出できているなら、類似魚種の提案、食べ方の類似方法を発見する。コメ輸出国であれば、コメの加工(パックご飯・冷凍ごはん)などの開発もヒントになると考える。現地製造がポイントになるが日本人ネットワークはなかなか築けない。

食に関して非常に保守的であり、ラーメン、うどんなどの汁のある麺類はあまり食べない。カップラーメンの作り方も知らない人が多数。

徐々には広がりつつあるが、インドネシアや中国、韓国などの安い製品に占有されている印象。

エジプトの軽食



エジプトのインスタント麺



4

日本のB級グルメ戦略

(セントラルキッチン ⇒ 屋台 ⇒ 自営業者の育成 ⇒ 日本食の普及)

例えば、日本のB級グルメを屋台で1000店舗ほど展開すれば、1000人日本食オーナーが生まれる。

エジプトにはコシャリというB級グルメがあるが、日本のチャーハンと焼きそばを混ぜたような味である。日本の焼きそば、お好み焼き、たこ焼き、からあげ、タイ焼き、牛丼、天丼などを展開して彼らの仕事を作りながら日本食を普及するといいと私は考える。

CPU的な大事な原材料は日本から輸出することがポイントで、全部日本から持ち込まない、「日本食＝高級の晴れの日の料理」では輸出事業は広がらない。

ムスリムが食べたいもの

日本のB級グルメが食べたい。

DON DON DONKIの和牛串、ファミリーマートのおでんなどが大ヒット。



嗜好の違いには注意

東南アジアは辛い物が好き、中東は辛い物はあまり食べない、アフリカは？



ワゴン販売





5 スポーツのサッカーやアニメ・マンガなどコンテンツも発信が重要

中国・韓国に負けないアフリカ対策は「長寿・健康」と「スポーツ・マンガ・アニメ」などで、まずは興味を持ってもらうことです。

日本は世界でも長寿の国です。イスラム教の多くは短命な国が多いです。日本食＝ヘルシー長寿をうたい普及する、またアフリカの多くはサッカーが盛んです。日本も今は強くなりました、サッカー外交を通じ、日本食の普及ができるといいと考えます。

ドバイのサンリオショップ



ハラル認証団体ではありません。

一般会員:約150社(特別会員含む)

情報会員:約26000人(約9500社・団体)

のハラルビジネスのマーケティング支援団体です。



■ ハラルセミナー・企業研修などの教育

社内研修、商工会、銀行、展示会など全国各地で講演をお引き受けしています。

また、ハラルビジネスの全体像を学ぶビジネス講座等も行います。

■ イスラム市場調査・PR活動やマーケティング支援

在日ムスリムによる試食調査、体験モニター、海外アンケート等の調査、マーケティング、商品開発、国内外への広報PRなどそれぞれの企業様の目的に応じたお手伝いをいたします。

■ 輸出・進出・認証取得サポート

国内外のハラール認証取得のサポートや海外進出のサポートを致します。

■ メールマガジン(毎週2本:無料)

配信数26,000名。当会代表理事が日本のハラルビジネスの現場から、リアルな情報を語ります。

これまでの実績

200以上の自治体・各種団体のセミナー等を実施

平成26年度 秋田県仙北市 ムスリムモニターツアー実施・監修

平成26年度、27年度 沖縄県「輸出戦略実行委員会」ハラール部会専門委員

平成26年度、27年度 岡山県(岡山県中小企業団体中央会)「東南アジアイスラム市場対応商品開発等支援事業」実施アドバイザー

平成27年度 沖縄観光コンベンションビューロー ムスリムガイドブック作成

平成27年度、28年度、29年度 岐阜県 県産品(加工食品等)のイスラム市場開拓事業 委託業務 セミナー、展示会、商談会等

平成27年度 埼玉県化粧品産業国際競争力強化委員会委員

平成28年度、29年度 宮城県農林水産部食産業振興課 ハラール対応食普及促進事業

平成28年度、29年度、31年度 岐阜県農政部農産物流通課 対インドネシアハラール施設認証に関する基礎調査

※飛騨牛の東南アジア輸出戦略

平成28年度、29年度 岡山市・吉備中央町・真庭市広域連携ヘルスツーリズム事業 ムスリムガイド、セミナー、支援専門委員

平成29年度～令和2年度 富山県 東南アジア等外国人対応飲食店育成事業

平成29年度 鹿嶋市 鹿行地区版DMOに係る「おもてなし向上研修」委託業務

平成29年度 岐阜県 イスラム市場等における岐阜県産品等の現状等調査委託業務

平成30年度～令和4年度 岐阜県 イスラム市場等販路開拓促進支援業務委託

平成31年度、令和2年度 ふじのくに総合食品開発展「ハラール特設コーナー」運営業務委託

平成31年度 廿日市市 ムスリムおもてなしセミナー開催委託業務

平成31年度 埼玉県オリンピック・パラリンピック課 ボランティア研修講師

平成31年度 多文化社会EXPO2019静岡県ブース出展運営業務委託

令和 2～4年度 岐阜県 首都圏におけるハラール認証飛騨牛試食会実施委託業務(インドネシア向け輸出調査含む)

令和 3年度 福岡県 マレーシア・シンガポールのバイヤーとのウェブ商談会実施業務

令和 3年度 千代田区 ムスリム等対応店舗の支援及び情報発信業務

令和 2、4年度 静岡県 ハラールオンライン商談会運営業務委託



佐久間朋宏(さくまともひろ)

出身: 岐阜県下呂市

現職: (一社)ハラール・ジャパン協会 代表理事、(株)ジャパンハラールビジネスセンター所長

中小企業基盤整備機構 国際化支援アドバイザー

自治体国際化協会[CLAIR]プロモーションアドバイザー

日本水産資源保護協会復興水産販路回復アドバイザー

みやぎ産業振興機構 海外販路開拓専門委員

ふじのくにしずおか観光振興 アドバイザー

※2022年12月末現在

協会概要

商号	一般社団法人ハラル・ジャパン協会		
ホームページ	https://jhba.jp		
設立	2012年10月	拠出金	1050万円
所在地	東京都豊島区南池袋2-49-7 池袋パークビル1F		
理事	代表理事 佐久間 朋宏 / 副理事長 島居 里至 理事 坂本 善博 / 監事 水野 尚博		
取引自治体	全国150以上	取引企業	650社以上
業務提携金融機関	秋田銀行、七十七銀行、東邦銀行、常陽銀行、足利銀行、群馬銀行、東日本銀行、横浜銀行、静岡銀行、清水銀行、十六銀行、百五銀行、滋賀銀行、京都中央信用金庫、中国銀行、トマト銀行、百十四銀行、阿波銀行、四国銀行、肥後銀行、琉球銀行		
E-mail	info@jhba.jp		
TEL / FAX	TEL. 03-4540-7564 / FAX. 050-3730-7549		
ハラル商品メディア	JIOHAS https://jhba.jp/showcase/		
ムスリム向けメディア	Japan Muslim Guide https://muslim-guide.jp/		